

尾張旭市第六次総合計画策定に係る事業者インタビュー

| | |
|-----|------------------------------------|
| 日時 | 令和4年7月20日（水）午後7時から |
| 場所 | 商工会館 |
| 参加者 | 尾張旭市商工会青年部役員 |
| 聞き手 | 尾張旭市 山下課長、田中係長、北川主査 MURC 佐々木、河合 |

1. コロナ禍で顕在化した変化・課題

●テレワークについて

※コロナ禍にテレワークを実施したことのある事業者は1者

- ・ 政府から出勤7割減の要請があった頃にテレワークを開始した。設計や営業は自宅でノートPCを使って実施できる。現状は出勤の制約を設けていないが、テレワークを選択できるようにしており、在宅勤務を基本としている人もいる。テレワークは実施しやすいため、コロナ収束後も継続していく予定である。（須寄健）

●コロナ禍での新規事業の取り組みについて

※コロナ禍に新しい事業は特に行っていない。

2. まちづくり活動への参画について

- ・ ボランティア活動を行っているものの、それ以外はやっていない。（行政による）まちづくりイベントがPRされれば参加しようとは思っている。
- ・ 不動産開発を行う会社であり、街並み形成や居住環境整備、宅地開発、企業誘致などに携わっている。
- ・ 事業者アンケート結果「10年後にどのようなまちにやっているとよいか」で、農業保全、市民活動、イベントがワースト3となった。青年部ではイベントを開催しているが、市民は望んでいないととらえてよいのか。
→中学生を対象としたアンケートでは、イベントなどまちのにぎわいに関する意見が上位となっている。
- ・ 建設会社で道路工事業業をしている。尾張旭市が発注する工事の仕事をやっているが、それぐらいしかない。一方で、青年部の活動を通じて尾張旭市を盛り上げている。夏祭りや市民祭、新たなイベント等で盛り上げていきたい。
- ・ 子育て世代であるため、10年後のまちづくりについては、自分自身も子育てのことに目が行きがちである。
- ・ 仕事で公共事業をやっているが、まちづくりについては、その程度しかできていない。
- ・ 会社としては、何にもしていない。まちづくりについて、これまで何も意識していなかった。反省したい。
- ・ 現在の総合計画で掲げた目標について、どの程度達成しているのか、教えてもらいたい。

→全ての目標が達成できている訳ではないが、計画期間は来年度までであるため、それまで達成に向けて取組みたい。

- ・（目標達成で）一番苦勞していることは何か。自分たちでできるようなことであるならば、協力したい。

→コロナ禍においてコミュニティの問題が大きくなっているが、具体的には自治会加入率がどんどん下がっている。若い方が加入してもらええないため、加入率を上げることは至難の業となっている。

- ・ 企業として取組んでいることは特にない。しいて言えば、防犯カメラを設置しているため、防犯対策になっているかもしれない。青年部を通じた活動ぐらいしかない。
- ・ 10年後のまちづくりについて、子どもがいないため、子育てしやすいまちには興味がない。住みやすいまちにしてもらいたい。
- ・ 会社として取組んでいることはなく、青年部活動を行っているぐらいだ。
- ・ 10年後のまちづくりについて、市内にキャンプ場などができると嬉しい。たくさんの人が訪れるまちになるといい。
- ・ 会社として取組んでいることは特にない。サービスステーションを営業しているが、給油に訪れるシルバー人材センターの登録高齢者等に声がけして、コミュニケーションをするように心がけている。
- ・ 今後のまちづくりの関わり方について、「興味や関心がある内容ならば参加したい」が64%であるが、どこで知ることができるのか。どこかで発信しているのか。

→広報紙やホームページが情報発信手段になっているが、情報が得られる場が少ないと感じており、興味を持ってもらえるような手法を考えたい。

3. 今後10年間で実現が望まれるまちの姿について

- ・ 企業としての意見をとんでも言われてもピンとこない。青年部活動では、市民の皆さんに喜んでもらえるような活動を行っている。
- ・ ライフスタイルが多様化している中で、いろいろな考えを取り入れて見直していかないといけないと思う。人と人とのコミュニケーションに対する考え方が（若い世代で）違うと言われるが、自分たちでもギリギリ（そちら）の世代になっていると感じる。なぜ紙媒体の回覧を使っているのか、といったような話はよく出てくる。10年後のまちを背負っていくのは、今の若い世代なので、そういった世代のことを考えて、いろいろなことを変えていってほしい。
- ・ 尾張旭市内には開発余地のある土地がないため、仕事をする機会がない。市内は地盤がよく工場や物流施設を誘致するポテンシャルがあると思うが、古くからいる人等、いろいろな意見があって、なかなか産業振興に舵をきれないと感じている。
- ・ 尾張旭市は特徴がなくていいまちだと思う。市内に買い物や遊びに行くところはないものの、近隣にあって、また、程よく住みやすい。しかし、それは生まれたときから住んでいるからそう思うのであって、移住してきた人から見ればどう思うかわからない。自治会や青年部のイベントをやっているのだが、新しく人が入ってきにくいようにも思う。市内に新興住宅地のようなところはなく、転入してくる人は、ところどころに入るため、馴染みにくい人もいると思う。新

しく入ってきた人たちの意見を取り入れる仕組みが行政にできるといい。また、自治会に全員加入にすることができないだろうか。

- ・ 生まれも育ちも尾張旭市であるが、子どもの頃は子ども会活動が盛んで、近所の人は皆顔見知りのような感じであった。しかし、今は横の繋がりが希薄になっている。地域コミュニティが上手く機能している市町村があるならば、そういったものをモデルにして見直しできるといいと思う。
- ・ 夏祭りの花火大会を復活させてほしいとずっと思っている。
- ・ 行政の情報発信について、今は紙媒体を見ない。インスタなどを使った方がよいと思う。
- ・ 尾張旭市では健康都市を掲げているが、（やっていることが）高齢者目線のように思う。もっと目線を下げて、若い人の健康について考えてほしい。例えば、スケボーパークをつくる。蟹江町ではスケボーパークがあり、オリンピック候補選手がでてきている。維摩池公園のシンボルロードを閉鎖しているときにはスケボーをできたが、蟹江町を羨ましく思う。長久手市にはバスケットボールコートがあり、自由に楽しめる。一方、尾張旭市ではフットサルを公園でやっており、専用コートがない。いる。城山球場（体育施設）をネーミングライツ（することで整備）できないだろうか。
- ・ バスケをやっているが、市内ではスポーツをやる場所がない。体育館も、名古屋では冷暖房が完備されている。また、市民大会や市長杯などあるものの、周知が十分でない。尾張旭バスケット協会に加入しているため情報を得ることができるが、一般の人には届いていない。
- ・ 緑を活かしてキャンプ場など遊べる場所ができるとうれしい。
- ・ 実家のあるところでは、人口が減り、地元の集まりがなくなり、回覧板も回らなくなった。自治会では、地域でお金を集めて街灯を整備したりできるが、若い人たちは、そうしたことを知らない（ため加入しない）。ただ、若い人の人との関わり方は変わってきていると感じていて、マンションで会ったときは挨拶をするものの、スーパーなど外で会ったときには会話をしたがない。
- ・ 今後、青年部のイベントでは、謎解きイベントを実施したいと考えている。自分自身が子どもを持つ親であるため、子どもたちを喜ばせるためにやっている。また、過去には自分たちの先輩がやってくれたため、それを引き継いでいる。中高生はあまり喜ばない。

以上

尾張旭市第六次総合計画策定に係る事業者インタビュー

| | |
|-----|--------------------------------|
| 日時 | 令和4年9月2日（水）午後7時から |
| 場所 | 商工会館 |
| 参加者 | 尾張旭市商工会工業部会役員 |
| 聞き手 | 尾張旭市 山下課長、田中係長、北川主査 MURC 河合 |

1. コロナ禍で顕在化した変化・課題

●テレワークについて

（在宅勤務、テレワークの実施状況：4社）

- ・ 生産部門ではテレワークは無理であったが、事務部門ではテレワークを強制的に進めていた。
- ・ 会社からの在宅勤務の直接的な指示はなかった。尾張旭市は生産工場のため、7割ほどが出勤していた。首都圏は管理部門や営業部門のため、ほとんどが在宅勤務であった。

●コロナ禍での新規事業の取り組みについて

- ・ 愛知県のメルマガをきっかけに、県事業に応募し、2020年2月よりスタートアップとの連携事業をスタートした。コロナ前から新事業展開を考えており、コロナとタイミングが重なった。
- ・ コロナ禍で飛散防止パーティション、足踏み消毒を製品化し、市役所へ寄贈した。足踏み消毒は、市役所寄贈をきっかけに警察署などからの受注につながったが、現在は頭打ちである。パーティションは引き続き需要がある。

2. 社会経済潮流からみた事業課題

- ・ 電力単価が高騰している。また、同業他社などからは、産廃処理費や資材の仕入れ価格などが1割程度高騰し、利益を圧迫していると聞いている。一方、価格高騰は値上げ交渉ができるタイミングでもあり、知っている限りでは、ほとんどの事業者が値上交渉を行っている。
- ・ 鋼材の仕入れ価格が上がっている。仕入れ価格が安定していた時は、1年間同じ値段で取引していたが、最近は数ヶ月ごとの交渉となっている。
- ・ 人材不足の問題がある。ハローワークを通じて、新卒、中途採用を行っているが、就職後、技術を取得した後で転職する者が多く、せっかく人材育成を行っても無駄になることが多い。
- ・ 少子高齢化が進み、高齢者が増えているが、尾張旭市には火葬場がない。瀬戸市や名古屋市など市外の施設を利用しなければならず、割高となっている。市として事業計画はないと理解しているが、今後の需要を考えると、検討が必要ではないか。
- ・ 高齢化が進み、空き家も増えてはいるものの、家族が近隣で生活しているため、管理が行き届いている状況。全国の地方都市の中では空き家率は低い状況にある。
- ・ 尾張旭市は、きれいで豊かなイメージがある。大手企業が市内および周辺に立地し、市民の平均所得が高いことがあげられる。
- ・ 少子化に伴い、新卒採用が難しくなっている。工業高校では、1クラスに1,000社の募集がある

といわれ、学校の先生とのコネクションを活かして、何とか毎年採用枠を確保している。また、大学生はものづくりへの関心が低くなっており、募集しても応募が少ない状況である。また、EV化による事業環境の変化も課題であり、内燃機関からの転換で部品点数が少なくなる中、どのように事業展開を図っていくかが課題である。また、サプライヤーとしての条件に毎年のCO2削減が義務づけられている。努力義務ではなく、サプライヤーとしての必要条件となっており、悩ましい状況となっている。

3 まちづくり活動への参画・取組について

- ・ 月1回、営業所のまわりの清掃活動を実施している。また、企業として電力の安定供給が社会的使命となっており、その状況について説明を定期的に行っている。
- ・ 地元向けに工場見学会などを開催し、事業について説明・理解をいただいている。また、連合自治会の盆踊りを後援しており、その一部を市より補助いただいている。地元とのコミュニケーション活動を行政として支援いただけると良い。

4 今後10年間で実現が望まれるまちの姿について

- ・ 健康都市宣言を行っているので、例えば、健康をテーマとした公共施設の活用など、健康に関心のある人たちの中で、尾張旭市が評判になるような取組が求められる。名古屋市の理想的なベッドタウン、住みやすいまちとして、市街化調整区域を市街化編入して活用を図ることが求められる。
- ・ 地震、台風リスクが低いことが特徴である。万が一の場合でも、家族、仲間の安否が容易に確認できるような、安全・安心なまちになると良い。
- ・ 高齢者が免許返納したくても、コミュニティバスの利便性が悪く、返納ができない。タクシーチケットなどでフォローはしていただいているが、高齢者の円滑な移動が支援されると良い。
- ・ 現状の尾張旭市に対して不満が全くないので、今の水準を今後も維持していくことが求められる。
- ・ コロナ禍でイベントが減少し、経営が厳しくなっている。企業が継続していけるような支援が行われると良い。

以上